

【イベント案内】

県立宮ヶ瀬ビジターセンター

●自然教室「丹沢の行者道を歩こう」

内容:山岳宗教がさかんだった東丹沢の登山道を歩き
かつての丹沢に思いをはせましょう。
(標高差約460m、健脚向き)

開催日:平成24年3月15日(木)

時間:9:30~15:30頃

場所:鐘ヶ岳周辺(厚木市・清川村)

講師:城川隆生さん(日本山岳修験学会会員)

参加費:2,500円(保険代込み)

対象:一般(高校生以上)

定員:30名(応募者多数の場合は抽選)

締切:2月23日(木)

県立秦野ビジターセンター

●子ども自然教室「ミニ登山隊しゅっぱーつ!」

内容:大倉尾根をのんびり元気いっぱい登ってみよう!
(標高差約300m)

開催日:平成24年3月10日(土)

時間:9:15~16:00頃

参加費:800円(保険代込み)

対象:4~8歳の子どものとその保護者

定員:30名(応募者多数の場合は抽選)

締切:2月23日(木)

県立丹沢湖ビジターセンター

●地学教室「丹沢の生いたち さぐり隊」

内容:丹沢はむかし海底火山だった!その証拠となる岩石を
観察し、実物をつかった標本図鑑をつくります。

開催日:平成24年3月17日(土)

時間:9:30~16:00頃

講師:門田真人さん

(県立生命の星・地球博物館外来研究員)

参加費:1,700円(保険代込み)

対象:小学生以上(小学生は保護者同伴)

定員:30名(応募者多数の場合は抽選)

締切:3月5日(月)

環境省箱根ビジターセンター

●特別展「箱根湯巡り」

内容:箱根温泉の特徴や魅力を分かりやすく紹介します。

開催期間:平成24年2月4日(土)~3月15日(木)

開場:箱根ビジターセンター多目的ホール

【ビジターセンター自然教室申込方法】

往復はがき、またはFAXに行事名・参加者全員の氏名
・年齢・住所・電話番号(FAXでお申し込みの方は返
信先FAX番号)を記入して締切日必着で各ビジターセ
ンターまでお送りください。詳細は締切後の返信にて
連絡します。

※秦野ビジターセンターは往復はがきのみ受付。

2012

2月号
No.96

~自然公園から季節のたよりをお届けします~

神奈川県自然公園だより

丹沢大山国定公園 県立丹沢大山自然公園 県立陣馬相模湖自然公園 富士箱根伊豆国立公園

潜るの大好き!カイツブリ



箱根ビジターセンター

この時季、箱根の芦ノ湖ではたくさん水鳥が見られます。

マガモ・カルガモ、常連のオオバン・ヒドリガモ・ホシハジロ・キンクロハジロに交じって、カイツブリの仲間も見られます。一瞬、カモのように見えますが、カイツブリの間は嘴が細く、首は長め羽根がらむらむらした感じで、頻りに水に潜ります。潜水は彼等の得意技で、頭から潜って魚やエビなどを捕えます。潜水時間は30秒程度、10m以上離れた場所にポツカリと浮かび上がります。カモのように水かきはありませんが、指には水をはくつと広がり引く閉じる木の葉形の弁膜があります。芦ノ湖では国内で見られる5種類のカイツブリを全て記録していますが、今季は留鳥のカイツブリ、冬鳥のハジロカイツブリの2種類を確認しています。



ハジロカイツブリ



オオバンの足にも見られる弁膜

先日湖畔に陣掛けて、沖合のハジロカイツブリと止まぬ競争しました。結果は27秒でハジロカイツブリの負け、私はまだまだ余裕の勝利でした。どこに浮かび上がってくるか予想するのも楽しいと思います。今季は冬鳥の数が少なくてちと寂しいのですが、じっくり観察することで、今まで気付かなかった何かを発見できるかも知れません。(石原)

自然公園へ出かけよう



休館日のお知らせ

県立ビジターセンター:月曜日(祝日開館)、祝日翌日(土日開館)

1~3月第2水曜日(祝日開館)

年末年始(12/29~1/3)

箱根ビジターセンター:6月第2水曜日とその翌日、
年末年始(12/28~1/1)

県立宮ヶ瀬ビジターセンター

〒243-0111 清川村宮ヶ瀬940-15
Tel046-288-1373 Fax046-288-1162

開館時間 9:00~16:30

(1/4~2/28は16:00閉館)

<http://www.kanagawa-park.or.jp/miyagase/>

県立秦野ビジターセンター

〒259-1304 秦野市堀山下1513
Tel0463-87-9300 Fax0463-87-9311

開館時間 9:00~16:30(通年)

<http://www.kanagawa-park.or.jp/hadanovc/>

県立陣馬自然公園センター

〒229-0201 相模原市緑区佐野川1659-3
Tel0426-87-5270 Fax0426-87-5270

開館時間 9:00~16:30

(12/1~3/31は16:00閉館)

<http://www.kanagawa-park.or.jp/jinba-vc/>

県立丹沢湖ビジターセンター

〒258-0202 足柄上郡山北町玄倉515
Tel0465-78-3888 Fax0465-78-3777

開館時間 9:00~16:30

(1/4~2/28は16:00閉館)

<http://www.kanagawa-park.or.jp/tanzawakovc/>

県立西丹沢自然教室

〒258-0201 足柄上郡山北町中川1867-2-9
Tel0465-78-3940 Fax0465-78-3940

開館時間 8:30~16:30

(12/1~3/31は16:00閉館)

<http://www.kanagawa-park.or.jp/nishitanzawa/>

環境省箱根ビジターセンター

〒250-0522 足柄下郡箱根町元箱根日礼場164
Tel0460-84-9981

開館時間 9:00~17:00(入館は16:30まで)

<http://www.mm.jp.or.jp/HakoneVisitorCenter/>

編集・発行:公益財団法人 神奈川県公園協会 〒231-0027 横浜市中区扇町3-8-8 関内ファーストビル6階

TEL:045-651-0931 FAX:045-651-0932

公園課(自然公園担当):sizenkouen@kanagawa-park.or.jp ホームページ <http://www.kanagawa-park.or.jp/>

後援:丹沢大山自然再生委員会

神奈川県公園協会

検索

真冬の生活

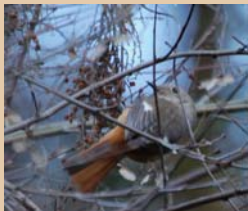
宮ヶ瀬ビジターセンター

冬は野外で暮らす生きもの達にとってはとても厳しい季節。寒さに耐えながら、少なくなった食べものをさがします。冬の間も枝先に実が残っている木には、いろいろな種類の鳥たちがやってきます。ヌルデの木にはジョウビタキやツグミ、シロハラなどが代わる代わる訪れます。

食糧事情は獣たちも同様で、春から秋には虫や木の実、草や花などいろいろなものを食べていたニホンザルが、冬には木々の芽や皮などを食べ、地面にわずかに残るドングリや草の実をさがす姿もみられます。

やわらかい草やササ類を主食とするニホンジカは、枯れ葉や木の皮などを食べて冬を越します。幹をとりまくようにぐるりと皮を食べられ、枯れてしまった木が丹沢でも見られます。本来、ニホンジカは平野部にくらす動物で、人間の営みの拡大にともない山地へと追われました。山地という限られた範囲で棲息数が増え、食べものが不足した結果、このような問題が起きています。

やがてくる春は鳥や獣たちの子育ての季節です。厳しい冬をたくましく過ごしながら、その準備も少しずつ始めていること



①ジョウビタキ



②ツグミ



③ニホンザル



④ニホンジカ

でしょう。自然の中にそっと分け入ると、そんな生きもの達の姿がきっと観察できるはず！ そのコツは…？ ビジターセンターでぜひ、お尋ねください。（鈴木）

春と冬が繰り返す季節

陣馬自然公園センター

昔は一年の始まりが立春でした。この日を過ぎると気温は上昇に向かい、次第に木々も芽吹き始め、春の気配をどことなく感じる季節になります。本格的に木々の葉が芽吹く直前、見通しのきく林の中で野鳥の姿を楽しむことができます。下旬になると陣馬山山頂では春の訪れを告げるマンサクやヤナギ類の花が咲き出し、彩りを添えます。（写真：①②）



①マンサク



②ヤナギ類

しかし、春が近づいているのに雪が降ったり（昨年2月中旬ではセンター周辺27cm、陣馬山山頂40～50cmの積雪）、霜柱ができることがあります。（写真：③④）これらが日中に溶けて、靴やズボンが泥だらけになり登山者を悩ませます。こうした時にスニーカーで登ってしまうと、冷たい泥水が靴にしみ込み、足先が冷えてしまうこともあります。（写真：⑤）



③陣馬山山頂の積雪



④センター玄関前の積雪



⑤グチャグチャになった登山道

最近では手軽に登れる山と紹介されている陣馬山ですが、低山だからという先入観を持たないでしっかりとした準備と情報収集をして、時間に余裕をもって登山を楽しんでください。（荒井）

冬の子育て

秦野ビジターセンター

2月、丹沢山地は年間で最も厳しい寒さを迎える時期です。けれど、そんな時期に出産、子育てをする生き物があります。それは、ツキノワグマです。

冬眠することで知られるツキノワグマですが、実は、メスは節分のころに冬眠穴のなかで新しい命を宿します。冬の中にはクマの食べ物などありません。春までの間、メスは飲まず食わずで自分の身体を維持し、2～3頭の仔グマに授乳をします。それに耐えるだけの脂肪をたっぷりと蓄えることが出産の条件といえるでしょう。

丹沢山地で確認された越冬穴は、人が容易には近づくことができない険しい沢の斜面にある根上がり（写真）などでした。この越冬穴は出産したメスが利用したものです。中には剥いだスギの樹皮がベットのようになっています。

秋の豊富な食料（木の実など）と冬の安全な越冬穴。丹沢山地にもいつまでも、クマが暮らせる多様で豊かな自然環境があり続けますように。（長縄）



“クマ結び”

（ササをよじって作られている。越冬穴のまわりでみつけることもある。クマのベット？）



クマの冬眠穴

真冬に生まれるドラマ

丹沢湖ビジターセンター

2月、ヤマアカガエルが卵を産むのは1年で一番寒いこの時期です。雨が降った翌日に寒さが緩むと丹沢湖ビジターセンター裏の池から鳴き声が聞こえてきます。オスがメスを呼び、産卵へと誘う声です。

1匹のメスから数百の卵が集まった塊が生まれ、2～3週間後にオタマジャクシが孵ります。

数えきれないオタマジャクシからカエルとなって上陸し、大きくなって再び池に産卵に来ることが出来るのはほんの一握り。というのも他の生きものに食べられることが多いからです。

春から夏、ヤマカガシというヘビが池の中でオタマジャクシを食べる様子が見られるようになります。逃げ場のない池ではヤマカガシにとってオタマジャクシの食べ放題ですが、難を逃れてカエルへと成長する個体がいることから、ヤマアカガエルは数で勝負していると言えます。

カエルやヘビ、その他の生きものも食べたり、食べられたりの環境を生き抜いています。小さな池で繰り返される命のドラマに立ち会ってみませんか？（楯谷）



上陸したばかりのヤマアカガエル



ヤマカガシがオタマジャクシを捕食



ヤマアカガエルは冬の間は冬眠します。



ヤマアカガエル卵